

子ども未来学部子ども未来学科の教員養成に対する理念と育てたい教員像

本学科の教員養成に対する理念は、建学の精神「捨我精進（しゃがしょうじん）」（「本学の教員養成に対する理念と育てたい教員像」にこの言葉の説明がありますので参照してください。）に立脚し、「子どもの最善の利益を守る」ために、子どもと社会の未来について深く思考しながら行動できる専門性の高い保育者（幼稚園教諭）を養成することです。

本学科では、社会の未来としてかけがえのない子どもたちが、現在をよりよく生き、未来を幸せに生きていく力を育むことができる保育者の養成を目指しています。それは、社会環境を広く見渡す視野と人間を深く探究する力を蓄えた保育者の養成です。未来のあるべき社会の姿を考える新たな専門性を備えた保育者の養成を目指しているのです。

そのために、現代社会が抱える課題や多様なニーズに対応して地域社会に貢献することができる保育人材の養成を目的とした教育課程（カリキュラム）を編成しました。つまり、「子どもからの学び」（＝保育者としての専門性にかかわる実践的科目群）、「子どもへの学び」（＝知識と教養および人間の探究にかかわる科目群）、「なかまとの学び」（＝なかまとともに対話・思考し、協働してコミュニケーション能力や他者理解を深める科目群）という三つの科目群を配置して、着実に自己の学びを積み重ねていく「循環する学びのプロセス」が獲得できるようにしています。

これによって、保育者（幼稚園教諭あるいは認定こども園で働く保育教諭）として必要である次の能力を身につけることができると考えています。

- ① 自らの保育実践を深め、体験を通して絶えず成長し続けていくことのできる能力。
- ② 子どもや子どもを取り巻く多様な他者とかかわりつつ、自己を深め、対話と省察を通して協働しながら保育を展開していく能力。

学生が、4年間の教職科目および子どもにかかわる多様な学びを基礎力とし、上記①②の力を身につけることによって、幼稚園教諭（あるいは認定こども園で働く保育教諭）として必要な深い思考と実践の反復が可能となり、保育者として学び続ける姿勢を有する人材となって社会に貢献していくことを願っています。